

NPO 法人

Gol. Gol. Gol.  
第55号

# 芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578

TEL 055-288-2531 FAX 055-288-2345 HP <http://ashiyasu.com> Mail [afc3193@nusne.jp](mailto:afc3193@nusne.jp)

## 南アルプス国立公園指定 50 周年記念

# 受け継ぎ歩む南アルプスフェスタ 2014

2014 年は南アルプスが国立公園に指定されて 50 周年という記念の年。年間を通して各地でイベントが行われました。山梨県では 10 月 4 日、11 日の 2 日間にわたり「受け継ぎ歩む南アルプスフェスタ 2014」が開催されました。

10 月 4 日は、榎形生涯学習センターで南アルプス国立公園のシンボルマーク表彰式やトークイベントなどが行われました。

南アルプス国立公園シンボルマーク表彰式では、一般公募による応募総数 333 作品の中から、力強い南アルプスの山々や清流、県民の交流などを表現した群馬県在住の中島厚氏の作品が最優秀賞に選ばれました。シンボルマークは今後、南アルプス国立公園の PR に使われていく予定です。



南アルプス国立公園  
MINAMIALPS NATIONAL PARK

最優秀賞の作品

「日本アルプスサミット山が人を創る～登山の歴史を支えた人々～」では、国立公園の目的のひとつである適正利用にスポットを当て、登山の歴史を振り返りながら、

南北中央アルプスの第一線で活躍しているガイド、山小屋関係者らがこれからの登山について考えるトークイベントが行われました。パネラーは、清水准一氏（NPO 法人芦安ファンクラブ・南アルプスガイドクラブ）、上野真一郎氏（NPO 法人静岡山岳自然ガイド協会）、穂刈康治氏（槍ヶ岳山荘主人）、羽場崎功氏（アルプスネイチャークラブ）、神谷有二氏（山と溪谷社）、コーディネーターは塩沢久仙氏（芦安山岳館館長）の 6 人。

トークでは、かつて山案内人として活躍してきた人々の紹介に始まり、「これからの山岳ガイドには安全性の管理以外にも山の自然や歴史を解説することで、登山者により深い体験を提供することが重要ではないか」、「衰退傾向にある学校登山を増やし、子供たちに山へ登る達成感を味わってほしい」ということが話し合われました。最後には、「先人たちが残してくれた貴重な山岳自然環境や文化を大切に、地域、山小屋、登山者、行政がそれぞれの役割を果たしながら 100 年後の子供たちに誇れるように“受け継ぎ歩む” 私達でありたい」と塩沢氏より結ばれました。



トークイベントの様子

この事業の締めくくりとして南アルプス国立公園の未来への提言を、学校登山や環境教育に積極的に取り組んでいる南アルプス市立芦安中学校の生徒3名が行いました。芦安中学校の学校林の整備や登山道のパトロールなどの環境教育の取組みの紹介、9月に行った北岳学校登山について、感想文を写真スライドとともに紹介しました。

その他、会場ロビーでは山岳写真展や南アルプスを紹介するパネル、シンボルマークの応募作品の展示を一ヶ月間行い、多くの方に南アルプスの魅力を知ってもらう機会となりました。

10月11日は広河原で野外イベントを開催。カツラの大きな森を歩く自然観察会やシカ肉試食会、各市町村の観光情報コーナーなどを行いました。参加者からは「シカ肉は臭みが少なく美味しかった」、「下山後も楽しめる周辺施設の案内などがあると嬉しい」という声がありました。

・ネイチャーガイドによる自然観察会

広河原園地での観察会。参加者からは自然の仕組みについての説明がわかりやすかったなどの感想が寄せられました。



・シカ肉試食コーナー

早川町で狩猟されたシカ肉を使ったカツサンドとシカ肉のローストなどを広河原山荘で150食提供しました。



・クイズラリー

会場内をめぐって南アルプスに生息するいきものについて問題に答えるクイズラリーを実施しました。



・生きもの紹介コーナー

南アルプスに生息する哺乳類の毛皮や骨を展示し、歯の形と食べ物との関係などを楽しく解説しました。



南アルプス国立公園50周年イベントを通して南アルプスの魅力を再確認できた一年でした。これからも貴重な自然を守り、多くの方々に愛される国立公園を目指してまいります。

記：中村知里（芦安ファンクラブ）

お詫び

10月5日には、記念登山として仙丈ヶ岳・栗沢山登山を予定していましたが、台風の為中止となってしまいました。キャンセル待ちが出るほどお申込みいただいたのですが…。楽しみにして下さっていた皆さま、申し訳ありませんでした。次は晴れの日！

# 裸山食害防止ネット設置作業と

## 2014年ネット内の花々の開花報告

芦安ファンクラブ 依田 正

11月8日、私たち芦安ファンクラブメンバーは、市役所職員、楡形山を愛する会と合同で裸山山頂登山道に食害防止ネットを張る作業を行いました。その目的は、深刻な裸地化による土砂崩落を防止し、土砂崩落原因となるニホンシカなど野生生物の侵入を防ぎ、植生を保全するためです。今回の作業は、平成22年11月25日に行った裸山60M×60Mの作業以来4年ぶりでした。今まで張ったものとは違ったネットでしたが、清水准一さんの指導により約300Mのネット張り作業は1日で終了しました。

ここで今年裸山ネット内に咲いた花を報告します。5月は、ミヤマキンポウゲが咲き黄色に染まり、7月アヤメは順調に開花、ニョホウチドリが開花、アオハビョウタンボク(木)がネット内で順調に育ち、グンナイフウロ、ヤマオダマキ、テガタチドリ、クガイソウ、カワラナデシコ、エソノタチツボスミシ、ヤマハタザオ、ヤマハハコ、シオガマキク、コウゾリナ、クルマバナ、ヤナギラン、アマドコロ、シモツケソウ、が開花。



アヤメの開花



ニョホウチドリ

蝶の専門家である、山梨県環境科学研究所の北原正彦先生の説明では、蝶のコヒョウモンモドキの幼虫の食草はゴマノハグサ科のクガイソウであり、クモマツマキチョウの幼虫の食草はミヤマハタザオ、ヒメギフチョウ幼虫の食草はウスバサイシンだそうです。ネットの中には、クガイソウが咲きコヒョウモンモドキが元気に舞っていました。コヒョウモンモドキはクガイソウのみを食す狭食性です。したがって、クガイソウが無くなれば代替の食草はほぼ無く、直ぐにも絶滅してしまうことが考えられるそうです。



クガイソウとヒョウモンチョウの仲間

8月は、マツムシソウが咲き淡紫色になり、9月はタムラソウが咲き紅紫色に染まり、10月はアキノキリンソウが咲き黄色に染まり、単に楡形山がアヤメばかりでなく多様な動植物が共生している山だとわかりました。それ以外にも楡形山には、アツモリソウ、キバナアツモリソウ、ホザキツキヌキソウなどが生息していました。これからネットの中で咲いてくれることを願います。



今回の裸山作業で、食害防止ネット張りは終了と行政は言っていますが、まだ楡形山には登山道沿いに色々な花々が咲いています。今年も登山道を歩きましたが、年々花々が少なくなっていて食害が目につきました。又花ばかりではなく、アオハビョウタンボク、ナナカマドなどの木々も食害が見られました。確かに食害防止ネットを張り保護することで植物は戻ってきてはいますが、楡形山全体では食害が進んでいます。行政の指導で、ニホンシカの適切な個体数の管理を願います。

最後に2007年より楡形山食害防止ネット張り作業をお手伝いいただいた芦安ファンクラブのメンバーの皆さん、ご協力有難うございました。



# 小笠原小学校 PTA ふるさと親子登山

平成26年10月18日(土)、南アルプス市立小笠原小学校PTAのふるさと親子登山が実施されました。「すぐそこにある、ふるさとの山の素晴らしさを自分の子どもにも教えたい。」というPTA会長さんの思いからこの行事はスタートしたそうです。芦安ファンクラスでは、計画、事前学習、当日のガイドとお手伝いさせていただきました。当日は、50名近い親子が参加してにぎやかな1日となりました。10月中旬ということもあり、とても寒かったようですが、全員無事笑顔で登山を終えることができました。このような取り組みがさらに広がっていってくれることを願います。今回は、登山終了後に寄せられた保護者の皆さんの感想を紹介します！ 記：中込

子どもに登山を教えてあげたいと常に思っており、でも私一人では不安と思っていたのでこういう機会をいただきとても感謝しております。ガイドさんにも丁寧に教えていただき体調などの様子もうかがってくれ、とても心強かったです。宝物の思い出になりました。

楡形山を歩き自然に触れ合えるイベントが復活してよかったと思います。事前学習会がとても勉強になりました。

5年生の息子は普段口もきかなくなっていたところですが、「大丈夫？おんぶしようか？一緒に歩くな」とまわりを気遣っていて、いつの間にかたくましくなったと胸が熱くなりました。私的には「もう死ぬかも」と思うほど大変でしたが、不思議と次の機会があったらまた参加したいと思っています。

今でも楡形山を見上げては「あの山の頂上を歩いたんだよ。すごいね」と親子で話しています。素敵な思い出になりました。

今回は人数も多くガイドさんもついていたのでいつもとは違った雰囲気を楽しめました。



子どもと一緒に登山することができて良かったです。北岳の眺望、大きなカラマツなど地元の自然に触れ合うことができました。また楡形山での美化、環境問題、山奥で作業をされている方のこと、ボランティアの方々が鹿よけネットの設置を行っていることなどを知りました。

家に帰ると「写真をプリントアウトして登山日記を作りたい」と言うので、よっぽど楽しかったのと、自分に自信が持てたのだと思います。

仕事の都合で子どもたちと接する時間が少ないので、いい機会だと思いました。大自然の中で子どもと「寒い」「たいへん」「やったー」「あれ何だろう」「面白い」など気持ちを共有できたことが何より宝物になりました。

無理のない計画で安全に楽しく登山することができました。娘の、ありあまる体力に成長を感じました。写真ではなく実際に大自然に触れたり見たりしたことは、娘にとって、とっても良い体験だったと思います。

楽しんで登ることができ無事に帰ってくることでよかったと思います。とても寒かったですが、雨も降らず風もあまりなかったのですごしかったです。大自然の中で心が洗われるようなさわやかな気分でした。

PTA新企画で、呼びかけも初めての割には参加者が多く、関心の高さを感じました。小笠原小学校には、車で1時間弱で「大自然」を満喫できる、他にはない「自然の教材」がすぐそこにあります。来年も企画していただきたいです。

楡形山とはいえ急な坂を上ったり下ったり、我が子は班の中では一番小さかったのでついていけるのか心配しましたが、ガイドの後を一生懸命ついていく姿を見てたくましくなると、子どもの成長を感じることができました。楽しかったようで、次回もあればまた登ると当然のように言っていました。



事前学習会とても良かったです。初めて知ることが多く、登山が楽しみになりました。

子どものがんばる姿を間近で見られてとてもうれしかった。こんな機会がなければ一緒に山登りすることもなかったと思います。

親子で参加ということで日頃のお子さんとのやり取りや気遣いなど、普段では見られない場面もありとても良かったです。また親御さんとも話ができて「横のつながり」ができました。

1年生の子どもと登ることに不安はありましたが事前の説明会等で心と装備の準備ができました。子どももめったに見られない自然や登り切れた達成感に喜んでいました。



# 芦安のいま、そしてこれからを考えよう！



過疎化が進む芦安地区。子どもや若者が減り、高齢化が進み、これからどうしていったらいいのか…。

そんな課題に向き合うため、「芦安みらいサロン」が開催されています。南アルプス市と山梨県立大学の連携により、芦安の将来構想を作るための対話の場です。昨年10月から始まり、全7回の予定で開催されています。地元住民や地区で観光にたずさわる人たち、南アルプス市の職員など、年齢も職業もバラバラの約30名が集まり意見交換をしています。地域に関わるものとして、芦安ファンクラブからも2名が参加しています。



会の中では、芦安の現状や今後への不安などを語り合うことから始まり、芦安の魅力、さらに、みんなが芦安に希望を持ち続けるためにはどうすればいいか、と話が進んでいます。「マイナスの部分も多いけれど、それを上回るプラスの想いを持つことができれば…」そんな雰囲気か少しずつ生まれてきているようです。

5回のみらいサロンを経て、「実現したい5つのアイデア」が生まれました。今後、その実現に向けて一つ一つハードルを越えていけるよう、芦安ファンクラブとしても努力していきたいと思います。 記：中込

	テーマ	目指すべき姿
1	空家の利活用	芦安の四季を楽しむ豊かな暮らし
2	南アルプスビジネス創出	南アルプスブランドの食品づくり
3	芦安グルメと温泉	多様なイベントの開催
4	そばを提供する地或拠点	芦安地区で栽培したそばが食べられる
5	芦安 NEW 教育スタイル	英語や自然体験等特色ある小中学校づくり

## ！新入会員紹介！

もちづきひとみ  
望月仁美さん

南アルプス市在住の望月仁美と申します。昨年10月に入会させていただきました。

世界で一番好きな場所、それが北岳トラバース道のお花畑です。二十代半ばから登山をはじめ、いつしか我が家から見える山は全部登ってみたいと思うようになり、北岳との出会いもやってきました。

ある年、6月から9月まで毎月北岳に登る機会がありました。6月下旬のキタダケソウに始まり、7月はハクサンイチゲ、8月はシナノキンバイ、9月はキタダケトリカブトと衣を着替えるかのように、違う衣装をまとうお花畑に驚きました。また、登るたびに個性的な高嶺の花々に出会い、貴重な高山植物の宝庫でもあることに感動しました。「百花繚乱」のお花畑の虜になった私は、それから毎年のように北岳に通うようになりました。

私が山に登り始めた頃のお花畑の様子と最近のお花畑の様子は違ってきています。確かに何十年か前のお花畑は力強く勢いがありました。最近は何とかそこにいのちをつないでいるといった咲き方のように感じます。それでも、何百年、何千年の月日を重ね、けなげにいのちの花を咲かせている姿を目の前にすると感動を覚えます。山の懷に抱かれると、自然の雄大さの前に、自分のちっぽけな悩みや日々の疲れも浄化されて、心身共に元気を取り戻します。子どもの頃から毎日見て育った南アルプスの山々が、いつしか私の心のよりどころになりました。私が山の魅力に触れ、山に登ることを知り、高山植物の名前や特徴を少しずつ覚えることができたのも、多くの山の先輩方に導かれたおかげです。

大好きな南アルプスの山々のために私でも力になれることがないか、もっと山に関わって生きていきたいと思い、芦安ファンクラブの活動に参加させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

